

グループホーム きらめき

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		御利用者の地域資源の活用方法として、以前にお住まいの知人、友人との交流馴染みの場所、行きつけの店などを外出支援として取り入れたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		朝の申し送り時の理念の唱和。理念を念頭に意識付けを目的とする。ご利用者が常に中心にいらっしゃるとの思いを、全職員が理解してケアに反映させる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域交流に全ての御利用者が参加されない状況なので、その方達のための方法を考慮している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		交流の幅を広げるにあたり、交流センター利用以外のかたとも、茶話会など取り入れられたらと思う。施設をもっと知って頂くため、施設内での企画を取り入れたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		全職員の参加が望ましい。現状は管理者中心になりがちである

グループホーム きらめき

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域交流センターしらかわ便りを月に一度発行、地域自治会より住民の方に届けている。地域体育祭においては準備に数日前から職員が参加協力させて頂いている。しらかわ便りにて様々な催事に参加者が増えつつある。情報発信の場となるようとり特している。</p>	<p>地域に居住している職員の自治会での事業所の役割の説明。</p>
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価を受けることで、客観的な視点からの現状を知る機会となる改善の余地、課題が山積であることから、今後の取り組みに活用し、職員の意識を高めることにも繋がると思う。</p>	<p>様々な評価を受けることで、御利用者の介護に活かしたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>開設後6月後から開始、御利用者の処遇、地域交流の重要性、今後の課題内容、地域の方々、自治体、御家族の御意見等を聞き、改善点等の指摘は速やかに対応反映するようにしている。職員にも報告情報共有している。</p>	<p>今後も資料の充実等を図り、参加者の方により理解して頂けるようまたより多くの御意見を頂き、反映できるよう取り組みたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の地域包括支援センター、安心介護相談員との交流などとの連携で会議、研修等の機会をもって取り組んでいる。</p>	<p>更に機会を作り、積極的に行き来をしてサービスの質の向上に努めたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者、職員とも制度の理解不十分な現状である。。施設の内部研修で、取り上げ実施したが十分な理解を得たとはいえない。</p>	<p>今後も内部研修、外部研修に参加して理解を深めたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員研修で取り上げられることが多く、職員の虐待防止への関心は高く、一定の理解は得られていると思う。</p>	<p>今後も更に意識を高め、決して虐待がないよう、見逃される事のないよう徹底していく。</p>

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に至るまでに詳細に説明を重ね、契約時に再度説明、不明な点の有無を確認し、十分な説明のもと納得を得られている。</p>		<p>管理者だけでなく職員も契約事項全てを把握するよう努めたい</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的にご利用者から意見をうかがっている。意見は申し送り共有して、改善の為意見交換のうえ改善を図り、次実施する。月1回の会議でも議題にかけている。</p>		<p>御自分で意見を言えない方もおられるので、日常的に行動、表情に気を配り、声なき声を把握できるように努めたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に報告するようにしている。あまり面会のない家族や緊急時には電話でお伝えしている。健康面については随時全ての御家族の報告している。家族交流会でもお話する。職員の異動についても家族会で口頭、書面にて報告している。</p>		<p>報告が漏れたり、遅くならないよう職員全体徹底する。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を設置、出入り口に提示して、口頭での説明をしようとする。忌憚のない御意見がいただけるように、お願いしている。</p>		<p>施設側からも意見を伺っていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者会議を月に1回開催して、運営者、管理者の意見交換を実施している。</p>		<p>今後も実施して管理者、職員の意見を反映させていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>施設内外の介護、行事参加、活動に合わせて、状況の変化に対してまた夜間の対応等勤務調整は行っており、職員も認識できている。</p>		<p>御利用者の状況に応じて、必要な時間、人員の確保に努める。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>当施設では、8月に管理者交替が行われたが、前管理者が隣接する小規模多機能施設に勤務しており、ほぼ毎日訪問して御利用者に関わっているため、ダメージは少なかったように思う。なるべく異動は最小限に留められるようにしたい。</p>		<p>今後も運営者とコンタクトをとり異動を最小限にしていきたい。職員</p>

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員採用時、年齢、性別で採用対象から外される事はない。採用後も研修参加や会議での意見発表の場を作り、管理者は必要と判断したら、個別に話を聞いたりしている。</p>		<p>職員の社会参加や自己実現の権利の確保は十分とはいえないと思う。今後運営者と連携しながら配慮したい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>施設内、施設外研修、また介護現場でも人権教育、啓発に努めている。</p>		<p>基本的な教育であり更に力を入れ、全職員で取り組みたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修は委員会別に毎月実施されており、介護施設全体の研修も毎月1回実施している。法人外では社会福祉協議会主催の研修に管理者、職員参加をしている。</p>		<p>法人外研修では、いまだ参加していない職員もあり、今後その機会を増やしていきたい。中には研修に意欲的ではない職員もありその啓発に努めたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者においては同業者との交流、意見交換会などの活動の機会を持つ事ができるが、職員についてはなかなか、その機会がなく交流ができていないのが現状である。</p>		<p>今後は管理者のみならず、職員も他施設とも連絡をとり合い、交流を図り、サービスの向上に努めたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>同事業所の他施設との合同交流会の機会を定期的に行い、介護上のことだけでなく、それぞれの悩みや相談をし合う機会としている。一定の効果は得られているように思うが、環境的には万全とはいえない。</p>		<p>程度の差はあるかもしれないが、ストレスは誰もが抱えている事でそれを軽減することは介護にもよい影響を与えたいと思う。環境も含めて取り組みたい。</p>

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の実績、勤務状況については把握しているが、努力については全職員の把握には至っていないように思う。全職員が向上心を持って働いているとはいえない部分もある。		介護の向上の為に、まずは職員が向上心を持てるような取り組みが重要であり把握に努めたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御利用予定である、ご本人の意見、要望を詳細に伺えるように、自宅訪問や施設での相談を元に、御本人の環境の変化に柔軟に対応できるよう、職員で統一できている。		現状では不十分な部分もあるかもしれない。今後さらに遠慮のない意見を聴けるよう努めたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御本人を理解するうえでの情報や入所に至るにあたり、要望を頂き書面や口頭で十分納得のいく御説明をさせていただいている。		更に徹底させたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者の必要されている支援の具体的内容を、率直に承り、御本人、御家族の思いを元に支援内容の説明をさせて頂いている。心身の状況を把握し適切な支援が提供できるようつとめてる。		ご本人、御家族は遠慮される場合があり、思いをそのままお伝えにならない事があるように感じる。思いを率直に聞かせて頂けるよう、話し方や環境を整えていきたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学をご本人、御家族とともに行き、施設の雰囲気、内容を事前に知って頂くようにしている。入所される御本人、の混乱を軽減させる意味も含めて、他の御利用者の御紹介等も行っている。		御利用者のリロケーションダメージを最小限にするために、これまで以上に職員、御家族と共に相談、工夫、意見の交換を行いたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自己決定を原則とし、介護を受けるだけの環境ではなく、共同生活者としての視点で「共に」の姿勢で人生の大先輩としての助言を仰ぐなど日常生活に取り入れ学ばせて頂いている。		各シフトにて工夫をして、更に御利用者とのかかわりを密にする。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族と支援内容や、ご本人の要望等、御相談させて頂き、近況報告をまじえ、情報提供等で共有するという認識で接している。		個別の視点に立ち必要な報告、相談、助言をし支えあい、ご本人を支えていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御本人、御家族との長い歴史の中の様々な関係において、入所以前の生活歴の情報を頂き、これまでの関係を決して悪化させる事のないよう双方の思いを理解して支援できるようにしている。		家族の関係は、私達介護者には立ち入れない、複雑な部分もあるが、入所という新たな環境にあっても、御本人、と御家族のよい関係が築けるよう支援したい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援においての取り組みに重点を置くようになって、日が浅く全ての御利用者への実施はできていない。		馴染みの環境への外出支援が課題となっている。こんご実現させたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各御利用者の性格、せいかつ携帯を踏まえ、たがいに支え合える場としてh-ルにとどまらず個々の思い、体調により居室も利用。		どうしても相容れない御利用者同志がおられるが、職員が関わったり、レクレーションを通じて、孤立なさることのないよう努めたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在までに、契約終了該当者なし。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を設け、個々の日常全般にわたり、コミュニケーションを図り、把握に努めている。担当以外の御利用者の些細な情報であっても、職員全員が共有するようにしている。		季節折々の衣替え、誕生会への関わりなど担当者が御利用者とともにいき、言葉にされない思いにも目を向けたい。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用、御利用者との関わりの中でのコミュニケーションにおいて会話、動作に注視、モニタリングに反映させている。		センター伏木の活用が不十分である。入所前の情報等の把握が求められる為、御家族の協力を得て、今後早急に充実させたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録として、24時間焦点シートを活用し、摂食、水分量、排泄、バイタル、睡眠等の状態把握につとめ、まいにちの申し送りに活用し、共有している。		焦点シートだけではなく介護記録も充実させ、毎日の生活の中から御利用者の現状を把握するように努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントは必要に応じ、随時行い、御本人の意思確認、面会時の御家族との意見交換、電話での御報告をもとにケアプランに反映させている。		サービス担当者会議の機会を増やして対応したい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し以前の緊急時や必要に応じて、御本人、御家族への説明を要する場合は、担当スタッフ、その他のスタッフの意思を交え、現状に適したプラン作成を行い、実施している。		当施設のケアマネージャーは隣接する小規模多機能施設管理者が兼務しているので、情報を的確に伝え、速やかな現状に応じた見直しをしてプランを作成するようにしたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録方法を導入し、ケアプランの把握を元に、日常のケアでの気づきを記入して申し送りや申し送りノートにて共有。今後のプラン作成においてアセスメントを行っている。		記録が行動だけになりがちであるため、言葉、表情等もっと気づきや工夫が必要と思う。
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人本位を軸にしたうえで、御家族の希望に添い、生活支援、個別の要望に応じているが、十分とはいえないまでも緊急時での支援、夜間の支援体制は得られている。		他の施設、連携している病院に御利用者の情報を伝える。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	御利用者の意思を可能な限り尊重し、ボランティア活動、学校行事、老人会に民生委員の御協力のもとに行っている。		警察、消防とは関わりが殆どないので、今後は協力をお願いして支援に取り入れたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当施設のケアマネジャーが他の施設や地域のサービス業者やケアマネジャーと話し合い、支援に取り入れている。		今後も続行する。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	御本人の状況、必要に応じ、地域包括支援センターに伝達、協働して支援を行っている。		今後更に連携、協働して支援に活かしたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している病院から、4名の主治医が2週間に1回、訪問診療に来所し、診療にあたり、発熱や怪我等、御利用者の状態に合わせ、随時訪問や受診をして頂いている。		御利用者の身体の小さな異変にも気を配り、適切な医療を受けられるよう支援したい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業者が認知症専門医であり、定期的な訪問診療において後利用者に関わり、治療にあたっている。職員も質問相談をする機会もあり助言を受けている。		今後も認知症専門医と関係を築きご利用者の支援を続けたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、隣接する、3施設に看護師が常駐しており、各御利用者の健康管理に努めている。		常に御利用者の身体状況を観察し、小さな異変を見逃さないよう心がけたい。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携病院である、白川病院と情報交換や相談を行い、御利用者に入院の必要性が生じた時、御利用者とお家族に安心していただけるよう努めている。		入院先の白川病院の意思、看護師と情報交換を行い、入院という事態になった時、安心して頂けるよう心がける
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時、または緊急入院時、今後の予測も視野に入れご家族と主治医との話し合いを行っている。現在終末期に該当する御利用者はおられないが、終末期に向けた全職員の情報共有はなされていない。		今後の早い段階から、御本人、御家族、医師と話し合い、終末期に向けた方針を全職員で情報を共有する。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	各御利用者の危険性、留意点の周知徹底がなされていないと思う。対応は病院の主治医共に話し合いチームとしてできる支援を行い、変化に備えた準備を行わなければいけないが、不十分である。		これについてはまだまだ取り組めていない。これを機会に考えたい
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	実施できていない。		今後御家族、御本人、と話し合い情報を得て住み替え時のダメージの防止に努めたい。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関わる記録の取り扱いには十分気を付けている。日常の関わりにおいては、基本理念にのっとり実践している。		尊厳を基本とする対応を心掛けていきたい。プライバシー保護についてはさらに徹底していく。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	自己決定を基本としている。本人本位をもとにケアを実践しているが長期間の入浴の拒否、水分の極端な拒否等については、納得して頂けるよう向き合い説明を行っている。		拒否されるケアについても、決して強制することなく、本人本位を守りたい。しかし健康という視点から医師から、指示された時の対応に悩んでいる。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に生活スタイルの違いがあるのは当然という考えで集团的、画一的なレクリエーションは行っていない。毎日の生活もペースを大切に思っている。居室、外出は個別に対応。		ペースを大切に対応しているが、果たしてそれが、私達の思い込み、自己満足になつているかもしれない。これまでの生活歴や御家族、にお話しを聞き希望に沿うように支援したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2月に1度美容院より出張してもらい、カットして頂いているが、御本人、御家族が希望される方は外出して望まれる店に行ってもらっている。クリームやリップ、マニキュア等御本人の物を用いてお洒落をされる事もある。		継続して身だしなみ、お洒落の支援をしていきたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活支援として、望まれる方には、食材の買物、食事の準備、後片付けをしていただいている。お勤めしても望まれない方には無理強いはいしない。昼食は職員も共に頂いている。		時に多忙にまかせ、職員だけで準備片付けをしてしまう場合がある。できる事の支援を、どんな時も守っていくようにしなければならない。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ、お酒など嗜好はうかがっているが、日常的には、御希望に沿った提供はできていない。		今後は各々の方の嗜好に合わせ、日常的に楽しんで頂けるよう支援できるよう努めたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在御利用者が何らかの排泄介助を要するが、ベッド上での排泄は夜間のみとして、日中は個別に排泄介助を行っている。水分量をチェックして排泄パターンの把握に努め、排泄誘導に活かしている。		気持ちよい排泄という意味では、十分の支援とはいえないと思う。おむつ、パットの使用を減らしていけるよう工夫が必要と思われる。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は御本人の御希望に沿って行っているが、夜間の入浴については実施できていない。		御利用者の殆どがこれまで夜間に入浴されていた。しかし今は昼間の入浴に限定された状況であるため今後は、希望されるかたについては夜間の入浴を実施できるよう考えたい
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の生活習慣を尊重して、行動制限は行わない。自由な急速の場として御利用者御本人に選択して頂いている。		ホールでの消灯時間は設定していない。ベッドには御本人の意思で入って頂く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各々の御利用者の力の発揮に取り組んでいる。気晴らしの支援としてドライブ、趣味を活かした短歌会、コーラス、書道等の参加支援に取り組んでいる。		各々の趣味や習慣を知り喜んで生活して頂けるよう、また力を活かして頂けるようさらに支援したい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の希望に応じて買物支援を実施するようにしている。現在2名の方に実施している。		一人ひとりの力に応じ、お金は所持していただいている。御本人が使えるような機会を増やしたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に御希望を伺い、外出への声かけを行っている。毎日の散歩、買物にお誘いし、希望された方に実施している。		個別に御希望対応が不十分である。人間的に実現出来にくい。チームの連携をうまく工夫し実現させたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の思いに応じた外出支援が出来ていない。		業務に流され計画すら立てていない。日程を決める等して、工夫して実現に向けて努力したい。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に応じて電話での対応は実施出来ているが、手紙のやり取りは出来ていない。		お一人の御利用者は書道等の作業をされているが、他の方は殆どないので、今後は是非取り組みたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所頂いた皆様に(家族、馴染みの方)笑顔であいさつを心がけ、居室でゆっくりとした時間を楽しんで頂けるよう、お茶やコーヒー等の飲み物や菓子等でもてなしている。		ホールでの御面会もお勧めしたい。居室と違う雰囲気も感じて頂きたい。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は全く行わない。全職員身体拘束禁止の理解は得られている。事業所全体で研修も徹底されているが、今後も正しい理解と指導を周知徹底をする。		今後も具体的な内容を取り入れた研修を定期的に行い身体拘束をしないケアに取り組みたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	隣接の2施設の玄関が共同の玄関になっているが、夜間の戸締り以外は常に解錠している。居室、ホールにおいても施錠はせず、自由な出入りを行っている。		引き続き行っていきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシー保護に配慮しながらも、定時を問わず、居室の出入りの際、トイレ、散歩などの際声かけをする等所在確認、把握を行っている。特に夜間の異常発見には配慮している。		安全確認には配慮しているが、時に御利用者がお一人で、お散歩に出られ、姿を見失った事がある。地域の方の声かけで一緒に戻られたが、所在確認には配慮したい。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、医薬品、消毒薬等は所定の場所に保管、包丁等の刃物は必ず職員と一緒に片付けている。異食のある御利用者には、出来る限り寄り添う。		注意の必要な物品の管理については、ご利用者の安全という視点から、徹底管理に努めたい。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修や自己学習で知識を得て、アセスメント、モニタリングにより個別の事故への危険性を共有し事故防止に取り組んでいる。		危機管理を職員が徹底し、予測される転倒や窒息、行方不明等を日常的に把握をするよう努める。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練はしていない。		訓練の必要あり。早急に取り組みたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年に2回実施している。。1回は消防署立会い、1回は夜間に実施指導を受け改善すべき点は、速やかに行うようにしている。地域行事の際協力をお願いしている。		訓練は行っているが、不安な部分は多々ある。常に意識していかなければならない。地域の方々にも協力を働き掛けていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	御家族には状況に応じて随時説明をしている。その内容及び個別のリスクは記録等で全職員が共有できている。抑圧感のない暮らしという部分は不十分かもしれない。		リスクを避けたいあまりに、無用の声かけなどがあるように思う。職員で話し合い対応したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日を通して、何らかの発見、気付きを心掛けている。申し送りにて情報を共有、緊急時の対応も予測、連絡網を活用する事になっている。		異常発見、対応への知識を全職員が得られるよう、研修、現場を通して徹底したい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員においては薬について理解しているとはいえない。服薬支援時は氏名、月日、朝昼夕などの3回確認には配慮をして、その後の観察は行うよう指導している。		全職員が薬の目的、用法、副作用等を理解する為、研修等を行っていきたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必ず牛乳はのんで頂き、食事では食物繊維の含まれている物を取り入れるように気をつけている。水分摂取にも配慮し、交流センターで行われている「よかばい体操」にも参加させてもらっている。		排便表チェックを行い、便秘傾向の御利用者には、個別に水分食事を工夫し、主治医とも話し合いスムーズな排便を図る。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、就寝前に声かけをして、歯磨きをして頂いている。介助を要する方には職員が必ず付き添い歯磨きをしている。		今後も引き続きケアを行っていきたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	目安として、1日1500ミリリットルの水分摂取を目指している。主治医に定期的に報告している。献立は当施設の職員が立てているが、管理栄養士にチェックしてもらい、指導を受けバランスのとれた食事を心掛けている。		御利用者の嗜好にも、配慮したうえで、更に栄養バランス、水分摂取等、お一人ひとりの把握に努める。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会にて、定期的に研修会を実施している。予防、対応についてはマニュアルを作成している。		今年は新型インフルエンザの流行で例年よりさらに、手洗い、口腔ケアを徹底している。季節性インフルエンザの予防接種は全御利用者、職員済ませている。これからさらに乾燥傾向になるので、感染にはより注意したい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士による台所を主とする、周辺はの清潔、安全管理の指導をうけている。毎日の買物にてより新鮮、安全な食材選びをしている。		1年を通じ、食中毒の予防のため、衛生管理、御利用者の手指の清潔等徹底していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設、交流センターの玄関は雨天以外は常時開けており、いつでも、どなたでもらい来所していただけるようにしている。		玄関の周囲は整頓しスリッパを揃えておく、花壇の手入れなどで入りしやすい雰囲気をつくりお迎えしたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感の部分では工夫が足りず、今後の大きな課題である。		今後職員全体で話し合い、居心地のよい工夫をしていきたいがまだ具体的には何もできていない。

グループホーム きらめき

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや馴染みの椅子、場所で思い思いに過ごしておられるが、限られたスペースでは十分とはいえない。		自分が居るべき場所に、他の御利用者がすでにおられる場合戸惑ったり、喧嘩になるときがある。自由に思い通りに過ごして頂くための工夫が必要で、前職員で考えたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族に、馴染みの品物があれば、持って来て頂き御利用者がのぞまれば、居室に置くようにしている。御利用者がこれまでの生活により近い日常を過ごして頂くために必要な支援したい。		職員の思い込みで、御利用者の環境を作ったりすることのないようにとえ御家族がお持ちになったものでも、御利用者の意思で飾ったり、設置したりしたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室においては、御利用者に応じた室温をエアコンで調節している。共有空間でも室温チェックをおこなっている。換気も臭いや、よどみのないよう定期的に行っている。		室温、換気への配慮も必要だが、冬は空気の乾燥が強くなるので
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが廊下、トイレ、浴室、ホール等の共有部分にしかない。居室にも整備が必要である。中庭の活用で洗濯物干し、取り入れができる。		居室の手すり設置を実施したい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がお分かりにならない御利用者には入口にプレートを下げて目印とし、迷われる事が殆どなくなった。トイレは4カ所にあるので、居室により近い所を使用されるので、混乱、失敗はあまりない。		御自分がいつも利用されるトイレに他の御利用者が先に入っておられると、混乱される事が時にある。そのような場合の対処を考える必要がある。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭園を憩いの場として活用、水やり、日向ぼっこ、花の種蒔き等で楽しまれている。またティータイムの場所としても活用し喜ばれている。		最近新たな花壇が出来たので、御利用者と共に花作りを楽しみたい。ははない。

グループホーム きらめき

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム きらめき

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)